



中心市街地活性化について意見交換するパネラー
＝土浦市大和町の男女共同参画センター

触れ合い志向の市場など提案

土浦市 中心市街地活性化シンポジウム

中心市街地活性化基本計画の策定を進めている土浦市は22日、同市大和町の男女共同参画センターで、まちづくり専門家を交えた「中心市街地活性化シンポジウム」を開き、市民やまちづくり団体など約130人が参加した。同シンポジウムは経産省の市街地活性化推進事業の一環。

基調講演で助言者として市の計画に関わる、マーケティング会社「商い創造研究所」社長の松本大地さんは、JR土浦駅前に計画される市役所、図書館や、同駅近くのモール505などをモデル地区とし、環境に

配慮した住環境、郊外大型ショッピングセンターとは異なる地元触れ合い志向の市場などを整備する「土浦グリーンソサエティー」という考え方を示した。

続いて行われたパネルディスカッションのパネリストに、地域再生マネージャント会社「インク総合計画」社長の斉藤俊幸さん、筑波大の大沢義明教授、土浦商工会議所の横山和裕副会長、NPO法人まちづくり活性化土浦の勝田達也理事長が参加。斉藤さんは駅前引退後の市役所移転について、「箱が出来ただけで終わ

ってしまうのではなく、役所内に直売所を作るとか、自分たちの生活の延長線上で考えて活性化を図ることが大切」と意見を述べた。今後、市は、2013年9月に計画の認定申請を国に行い、同年12月ごろから5年余を実施期間として計画に取り組む予定。

(齋藤智子)